

2012年8月1日 全2頁

2012年4-6月期GDP予想～前期比年率+2.7%を予想

政策効果に後押しされ、持ち直しが続く

経済調査部
齋藤 勉
エコノミスト 増川 智咲

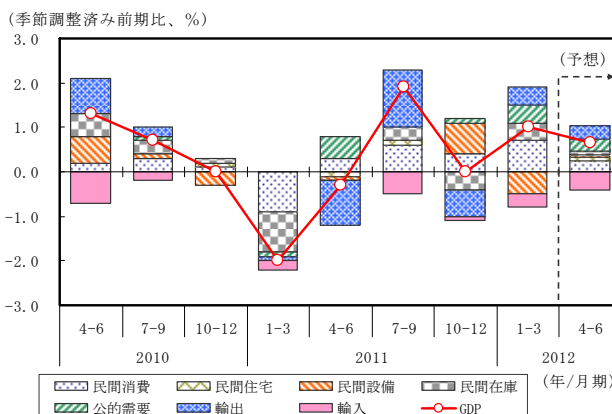
[要約]

- 2012年4-6月期GDP1次速報（2012年8月13日に公表予定）では、実質GDPが前期比+0.7%（年率換算+2.7%）と2四半期連続でプラス成長になる見込みである。
- 民間消費は前期比+0.4%と5四半期連続のプラスになると予想する。公共投資（公的固定資本形成）は、前期比+2.4%と2四半期連続のプラス、住宅投資は前期比+2.8%と2四半期ぶりのプラスになるなど、内需は政策の後押しを受けて持ち直しが続く見込み。
- 輸出は前期比+2.0%と2四半期連続のプラス、輸入は前期比+2.4%と12四半期連続のプラスとなる見込みである。増加基調の続く輸入により、外需寄与度は前期比▲0.1%となると見込んでいる。

2012年4-6月期実質GDP成長率は前期比年率+2.7%と予想

2012年4-6月期GDP1次速報（2012年8月13日に公表予定）では、実質GDPが前期比+0.7%（年率換算+2.7%）と2四半期連続のプラス成長になる見込みである。

図表1：実質GDPの推移



(出所)内閣府統計より大和総研作成

民間消費は改善基調が続く

民間消費は前期比+0.4%と5四半期連続のプラスになると予想する。エコカー補助金の影響から、自動車販売は堅調な推移を続けている。また、雇用・所得環境と消費者マインドの改善を受けて、旅行や高額品などの消費の増加が続いており、底堅い推移が続く。ただし、エコカー補助金の影響は1-3月期に既に現れていることから、消費の改善は減速を見込む。

公共投資は引き続き増加が続く見込み

民間企業設備投資は前期比+0.5%と僅かながらも2四半期振りのプラスになると予想する。6月の日銀短観では設備投資計画が大幅に上方修正されており、設備過剰感も緩和傾向が続いている。設備投資の基調については、緩やかな増加が継続していると考えている。公共投資（公的固定資本形成）に関しては、復興需要の本格化に伴って前期比+2.4%と2四半期連続のプラスになる見通し。住宅投資は前期比+2.8%と2四半期振りに増加すると見込む。住宅投資は、被災地域の住宅再建、消費者マインドの改善、「復興支援・住宅エコポイント」などがプラスに作用し、持ち直し傾向が続いている。

輸出、輸入ともに増加し、外需寄与はマイナスを予想

輸出は前期比+2.0%と2四半期連続のプラスと予想する。輸出数量の緩やかな改善に加えて、輸出価格の下落がプラスに寄与している。輸入は前期比+2.4%と12四半期連続のプラスとなる見込みである。輸出価格と同様に輸入価格も下落しており、実質輸入を押し上げている。増加基調の続く輸入により、外需寄与度は前期比▲0.1%と2四半期ぶりのマイナスとなる見通し。

政策効果の息切れに注意

4-6月期のGDPは、エコカー補助金、住宅エコポイント、公共投資の増加など、政策効果による持ち直しが続く見込みである。ただし、エコカー補助金は8月にも予算切れすると見られており、住宅版エコポイントは被災地を除いて7月初めに終了した。7-9月期は政策効果の息切れにより、一時的に足踏み状態になることが予想される。

図表2：2012年4-6月期GDPの予想表

		2011			2012	
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 (予想)
実質国内総生産 (実質GDP)	前期比%	▲ 0.4	1.9	▲ 0.0	1.2	0.7
	前期比年率%	▲ 1.7	7.8	0.1	4.7	2.7
民間最終消費支出	前期比%	0.6	1.1	0.7	1.2	0.4
民間住宅	前期比%	▲ 3.1	4.8	0.1	▲ 1.5	2.8
民間企業設備	前期比%	▲ 0.3	0.1	5.2	▲ 2.1	0.5
民間在庫品増加	前期比寄与度%pt	▲ 0.1	0.3	▲ 0.4	0.3	0.1
政府最終消費支出	前期比%	0.7	0.2	0.4	0.7	0.7
公的固定資本形成	前期比%	7.3	▲ 1.0	▲ 0.8	3.8	2.4
財貨・サービスの輸出	前期比%	▲ 6.3	8.7	▲ 3.7	3.0	2.0
財貨・サービスの輸入	前期比%	0.2	3.5	0.9	1.9	2.4
内需寄与度	前期比寄与度%pt	0.6	1.1	0.7	1.0	0.8
外需寄与度	前期比寄与度%pt	▲ 1.0	0.8	▲ 0.7	0.1	▲ 0.1
名目GDP	前期比%	▲ 1.3	1.6	▲ 0.3	1.2	0.2
	前期比年率%	▲ 5.0	6.7	▲ 1.3	4.9	0.9
GDPデフレーター	前年比%	▲ 2.4	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 1.3	▲ 0.9

(注1) 寄与度の合計は四捨五入の関係上、GDP成長率と必ずしも一致しない。

(注2) GDPデフレーターのみ原系列、その他は季節調整値。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成